

説教要旨「それでも世界は終わらない」



ルカによる福音書 21章5～19節

大きな災害が起こると新興の宗教が勢力を伸ばすという統計があります。「あの災害は神の怒りだ」、「世界の終わりの始まりだ」、「それを逃れるにはこうこうしなさい」などといった短絡的な教えが、不安に駆られている人々に受け入れられやすいからだろうと言われています。

「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る」(6節)。イエス様は、神殿の建物に見事さに感心している人々にそう語られました。神殿崩壊の予告です。それはユダヤ人たちにとっては、一つの大きな建物が壊れるというだけでなく、この世の終わりをも意味するような事柄でした。神殿崩壊の予告によって“世の終わり”に直面させられ、不安に駆られた人々は、「それはいつ起るのか」「どんな前兆があるのか」とイエス様に問います。それは世界の終わりが、いつどのようにして起るのかがわかれば、その前に何らかの備えができるかもしれないという思いからの問いかけです。

不安に駆られて戸惑っている人々に、イエス様は「世の終わりはすぐにはこない」から「惑わされないように気をつけなさい」と言われるのです。神殿が崩壊しても、あなたがたが絶対に滅びようがないと思こんでいるものが滅びたとしても、それは「世の終わり」ではない。その先があるのだ。だから惑わされないように歩みなさいと。

最後のところで、不安に駆られる人々に、イエス様は一つの約束をしてくださっています。

「しかし、あなたがたの髪の毛の一本も決してなくなる。忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」(18節)。

どんなに苦しくても、どんなに厳しくとも世の終わりはすぐには来ない。私たちはこの世を歩むしかありません。戦争も起こり、地震も起こる。それでもこの世界は続くのです。あなたの髪の毛一本までも愛してくださっている主なる神に信頼して、厳しいこの世を歩みなさい。イエス様は私たちにそう語りかけてくださっているのです。